



「ごみ持ち帰りを呼び掛ける看板を設置する製作者」

ハタハタの接岸シーズン前に ごみ持ち帰り呼び掛け 酒田北港北側防波堤に看板設置

冬の風物詩となっているハタハタの接岸シーズンを前に、酒田市の酒田北港北側防波堤に8日、釣り人に對してごみの持ち帰りを呼び掛ける看板が設置された。産学官による協働組織「美しいやまがたの海プラットフォーム」(議長・小谷卓

鶴岡高専名誉教授)などが随時進めているもので、今年で7年目の取り組み。関係者は「看板のおかげか近頃、ごみの量が少なくなっただよに感じる」と話している。

ごみの持ち帰りを含めマナー順守の徹底を広く釣り人に呼び掛けようと、「ハタハタプロジェクト」と銘打って2016年から同プラットフォームと県庄内総合支庁、NPO法人「庄内海浜美化ボランティア」(酒田市、江川英男代表理事)が展開している事業。これまでにハタハタ釣りで毎冬にぎわう通称・水路沿い、船溜まりに計約20枚を整備した。

今回設置した看板はステンレス製で縦90センチ、横120センチの大きさ。「ゴミは持

ち帰りましょう!」の文字と、釣竿を持った男の子がごみを持ち帰るイラストが描かれている。同法人が原画を作り、地元のイラストレーターがデザイン。この日は雨降りの中、製作を請け負った業者の作業員らが出て、酒田共同火力発電北側に位置する防波堤の壁面などに力所に取り付けた。

同法人は県の委託を受け、ハタハタ釣りのシーズン中、広報車による呼び掛け活動を、江川代表理事は「この看板を見ることで、ごみを捨てるという気持ちになければ」と話した。